

**第11回 理研バイオリソースセンター リソース検討委員会 諮問事項について
遺伝子材料開発室**

日 時 平成24年2月29日（水） 10:00～12:45

場 所 富国生命ビル 23階 理化学研究所 東京事務所 大会議室

出席者

（委員等）宮崎 純一 委員長、斎藤 泉、菅野 純夫、長谷川 護、濱田 洋文、
松島 綱治、向井 鎌三郎 各委員

（文科省）土屋ゲノム研究企画調整官

（NBRP）佐藤事務局長

（事務局）小幡センター長、阿部副センター長、村田専任研究員、今泉部長、村上課長
他

1. 実績について

評価コメント

【全般】

- 提供実績、保存技術への取り組み等、全体の実績は伸びており、また、受け入れ、保存について選択を行っている等高く評価できる。

【収集・提供・品質管理】

- B6NのBACライブラリーは高く評価できる。
- GFPのGEからの無償ライセンスの意義は大きい。今後、同様に昨今のしほりを受けた様々のバイオリソースのアカデミアへの無償供給が可能になるよう期待したい。
- 品質管理について、寄託されたものにはクローンの混入やとり違えの事例が多く見られ、理研BRCでの品質管理が大変重要となっている。このような実績から「理研ブランド」が醸成されると思われる。世界に誇れるものになりつつあり、標準手順書などの作成も高く評価される。

【保存技術開発・バックアップ】

- 保存技術の改善は特筆すべき事項である。検討課題の一つであった保存方法に関し、現行の-80℃保存から-30℃の保存法に変更可能かどうか検討されており、電力使用軽減の観点からその成果が期待される。
- 震災を契機としたバイオリソース保管に関するrisk managementは素晴らしいと思われる。

【前回委員会のコメントに対する対応】

- 全面的に応えていることは評価できる。
- 寄託者への提供実績の報告を要望した。寄託したものが理研BRCの活動の成果として多くの研究者に提供されていることを改めて見渡すことができた。20年間ほどの寄託者の努力が、多くの研究者の役に立ち、そして次の世代の研究者にも利用されていくことは感慨深いものがあり、理研BRCの活動は非常に意義深いと思われる。

助言・提言

【収集・提供・品質管理】

- 海外への提供30%は評価できる。国際貢献と国益を守るという両面を考えながら事業を推進して欲しい。

【広報活動】

- 配布実績は増加しつつあるが、もっとユーザーからのリクエストがあって良いと思われる。理研 BRC の存在意義を高める観点から、その保存内容の宣伝等を積極的に行うことが重要と思われる。海外、特に新興国への広報は有効ではないか。
- 主として日本で開発されたリソースであり、引き続き国内の学会での宣伝を継続すると同時に、技術講習会や各地大学等の施設を利用した出前技術講習会などを開催されると良いと思われる。
- 利用者による理研 BRC 由来研究材料使用の明記の要請を強めるべきである。国内の研究者(特に PI に対して)、文科省と調整を図りながら実施して欲しい。

【開発事業】

- 特許性のあるものについては、積極的に申請することが望まれる。
- アデノウイルスベクターについては、開発者から受け入れるだけでなく、理研が作製開発したものを多くの研究者に利用できるように進めること。
- バイオマス関連で、セルロース分解酵素遺伝子等の収集を行っており、リサイクルの観点から、今後の発展が期待される。この分野におけるセルロース分解酵素クローンの使用法について、理研サイドから、遺伝子導入バチルス属の作製・利用等、数種の典型利用例を示すと良いと思われる。一方、今後ニーズ指向の研究が理研で強まると、民間の研究開発との調整が必要となるとと思われる。

【バックアップ】

- バックアップ施設については今年中に整備されるとのことで、確実に進めていただきたい。

2. 次期中期計画及び NBRP 計画について

【運営方針・戦略・人事・資金】

- 次期計画で、理研全体での「ニーズ主導への転換」について、理念自体は悪くないと思われるが、具体的な面で短期的な計画にならないよう（例えば 3~6 年では難しいと思われる）、せめて 10 年~20 年の長期的な展望に基づいた大局的な視野からのニーズを設定すべきと思われる。
- もう少し絞り込みを行い「理研 BRC はこういう方向性で進める」という主張を明確化した方が良いように思われる。また、理研 BRC の計画には収集するターゲット等、もう少し明確に組み込むことが必要と思われる。
- 理研 BRC の今後の方向性は、これまでの路線で良いと思う。優れた整備戦略である。利用者の多い、国際的に利用されるリソースに整備されることを望む。
- 新たな室長には研究者としての資質、人間性、技術力などにおいて優れた人を選んで、その人のリーダーシップの下に発展して欲しい。
- 理研 BRC は、様々な方法で収入を増加させる工夫が必要と思われる。また、事業の安定性の観点から Funding についてゆとりのある運営資金の獲得が必要不可欠である。
- センター長の事務局を強化 (HP 作り等について) してはどうか。

【リソース整備戦略】

- 公的運営資金の研究、ナショプロによる成果物は「基本的に」理研 BRC への保存を原則とすべきである。但しこの場合、理研 BRC 側は断ることが出来るスキーム構築も重要である。
- 大学を退官される教授等のリソースを失わないように、対応して欲しい。
- 難培養性微生物の材料をどのような形で提供できるかを検討 (するかしないかも含め) して欲しい。

【国際関係】

- アジアとの連携では、今後中国とどう、うまく付き合えるかが大きな課題である。中国は国策資源として、国内遺伝子の国外「漏れ」を制限して来る可能性があり、この点を考慮する必要がある。
- 国際的な有料技術講習会を開いたらどうか。

以上